



高槻・五領の環境と
子どもの未来を

守る会 News

発行：高槻・五領の環境と子どもの未来を守る会

記事紹介：☆ 小山田徹 in 五領「小さな火床をつくる」
☆ 五領アートプロジェクトと「小さな火床」について
☆ 「ルールとマナーについて今思うこと」



五領アートプロジェクト 2020

五領アートプロジェクト 2017

小山田徹 in 五領「小さな火床をつくる」

最近の暮らしや地域のことについて、ちょっとお話ししていきませんか？
小さな火床のまわりに、ひとときの「共有空間」をつくります。



第1回：2020年10月24日（土）16:30～19:00頃

第2回：2020年11月28日（土）16:30～19:00頃

第3回：2021年1月予定

場 所：五領地区内

（問合せは090-2283-1619 村井まで）

参加者：五領地区および近隣にお住まいの方

☆ 野見神社でも開催します。

2020年12月8日（火）日暮れ時～18:00



小山田徹「グリーン・マウンテン・カレッジ」（奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良2018-2019」、2018年）
撮影：山口健一郎
提供：奈良市アートプロジェクト実行委員会

美術家 小山田徹（こやまだ・とおる）さん

1969年鹿児島生まれ、京都在住。現在京都市立芸術大学（彫刻）教授。1990年頃からさまざまな共有空間の開発をはじめ、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」、コミュニティカフェ「バザール・カフェ」の立ち上げに参加。2011年、宮城県女川町での「迎え火」プロジェクトを実施。2017年、沖縄県那覇市での移動式屋台型公民館「パーラー公民館」の設計・監修を行う。

【新型コロナウイルス感染拡大のため、以下ご確認ください】

- ・発熱やのどの痛み、倦怠感、風邪のような症状のある方、体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。
- ・ご来場時は必ずマスクを着用し、入場前の手指消毒の協力をお願いします。
- ・入場時の検温、名簿記入のご協力をお願いします。

主催=京都精華大学 共催=京都市 企画=高槻井戸端ダンスプロジェクト実行委員会

文化庁 2019年度 大学における 文化芸術推進事業|京都精華大学「LGBTQをはじめとするマイノリティの社会包摂を視野に入れたアートマネジメント・プロフェッショナル育成プログラム」

・・・ 裏面へ 続く

五領アートプロジェクトと「小さな火床」について

五領アートプロジェクトは2017年度にスタートし、「地域の人たちと五領地区で20年後、30年後にのこる地域の文化や文化活動をつくる」ことを目的に活動してきました。初年度は美術家・深澤孝史さんと淀川のヨシで50mの葦簀を編み、『西国-よしあし-街道・蚤の市』を一乗寺（梶原）で開催しました。2018年度は、蚤の市をきっかけに生まれたよし笛サークル「カワセミ」と音楽家・やぶくみこさんと五領地区でミュージックビデオを撮影しました。『五領のうた』という美しい歌もみなさんと作りました。2019年度は美術家・藪内美佐子さんと地域のオリジナルの物語『五領の声』を制作。五領幼稚園とピッコロ保育園のこどもたちの前で発表しました。お話づくりから衣装や小道具まで全て手作りで、その過程も大変に盛り上がりました。ところで、こういった活動をするときには、地域の方々の参加やご協力がなければ何もできません。「守る会」にはいつも助けていただき、また、まちを維持するために努力し続けておられるその活動は五領アートプロジェクトの励みになっています。

前置きが長くなってしまいました。2020年度の五領アートプロジェクトは美術家の小山田徹さんと「小さな火床」をつくりたい。先述のとおり、五領アートプロジェクトは人と人が集うことで活動してきましたが、コロナ禍の今、同じ方法ではできません。それでも、そうこうしているうちに、地域で生まれた人と人のつながりが失われるのは、とても残念なことです。小山田徹さんは美術家としてさまざまな土地で「共有空間をつくる」プロジェクトを行なってきました。「小さな火床」もその一つです。火のまわりには自然と人が集まります。知らない人どうしが言葉を交わしたり、黙ってじっと火を見つめたり。この「小さな火床」は東日本大震災の被災地でも行われました。バラバラだったコミュニティでしたが、ひととき火のまわりに人々が集ったのだそうです。

「お集まりください」とお誘いすることの憚られる今ですが、そんな今だからこそ、新しい地域での暮らしについて誰かと話せる場をつくりたい、そう思って企画しました。**地域の野外で行えること、通りすがりに参加できること、熱狂ではなく静けさを楽しむこと、誰かと体験を共有できること。**「小さな火床」をおそるおそる始めてみます。どうぞお立ち寄りください。
(五領アートプロジェクト・内山幸子)

「ルールとマナーについて今思うこと」

今年は一役引き受け、悪戦苦闘している。

正直青信号を待って必ず渡るかと言えば、時間に余裕が無ければ赤信号で渡っている。

守って当たり前とされる決まり事が**ルール**、相手を思いやる気持ちが表れる行動が**マナー**である事を自身何度も思い返し、何とか守って頂ける方法が無いのかと悩む日々である。今年にはコロナ禍の中、マスク着用等多くのマナーに縛られている。

ルールは守っても評価されることは少なく、それを守らないことで信頼を失うかも知れない。

現在、車の逆走やスピード違反等違反の大小に関わらず多くの問題があるが、社会規範を守ることによって人としての協調性や忍耐力が培われ、結果人間的な成長が育まれるものである。

みんながお互いを思いやりながら暮らしているのが社会であり、互いを支え合い成り立っている。

アニメの「名探偵コナン」の千葉刑事の小学6年生の初恋エピソードご存じだろうか？

赤信号で渡ろうとした苗子ちゃんに千葉君が「いちど自分を甘やかしてルールを破ると癖になる！癖は止めようと思っても止められない！」と注意された苗子が警視庁交通部交通課の府警に。

この言葉にあるように、自分を甘やかす（自身に都合の良い自分ルールを作っている）ことが、違反に繋がっているように感じる。

ルールに込められた人の気持ちを考えたり聞いたりして、自分自身の行動についても改めて見直そうと考えさせられる今日この頃である。……皆さんはどのようにお考えだろうか？

ひとりごと：昨年「大動脈解離」発症、九死に一生を得られたのは、本役をさせる為かと思うほどに多くの問題と向き合っており、ご一緒頂く役員方には心よりお礼と共にお詫びを申し上げないといけないようだ。 C. Y



編集部： 新型ウイルス感染症とほぼ日常で付き合う事になりそうです。どのような新しい生活様式を生み出せるか！私達の創造能力が試されているのかもしれない。

「守る会」定例会は、毎月、第4土曜日

16:00～18:00、上牧公民館
(上牧町本澄寺前)で開催しております。

連絡は、事務局村井 (masa569@tcn.zaq.ne.jp) 迄



発行： 高槻・五領の環境と子どもの未来を守る会

代表： 上田 博夫

住所： 〒569-0003 大阪府高槻市上牧町

1丁目3-17 上牧公民館内

電話番号： 090-2283-1619 (村井)

ホームページ： <https://takatsukigoryo-mamorukai.jimdo.com>